

全国空襲連

会報 No. 2

2011・1・20

全国空襲被害者連絡協議会

共同代表 : 早乙女勝元 中山武敏 荒井信一 前田哲男 齊藤貴男

連絡先 : 〒131-0045 東京都墨田区押上1-33-4 中村ビル102 TEL/FAX 03-5631-3922

年会費 : 個人 1口 2,000円 団体 1口 5,000円

郵便振替 : 00130-8-623364 (口座名: 全国空襲被害者連絡協議会)

E-mail : tokyokusyuizokukai@ybb.ne.jp ホームページ <http://www.zenkuren.com/index.html>

活動基本方針、国会対策・立法化本部設置 国民的関心と理解を広めよう

立法化・裁判支援 全国空襲連第2回役員会

全国空襲被害者連絡協議会(略称・全国空襲連)は、12月5日第2回役員会を東京・すみだ女性センターで開きました。活動基本方針、当面の具体的な活動、国会対策、立法化本部委員会の設置などを決め、空襲等被害者援護法(仮称)の制定、裁判の前進(判決の成果)で立法化の促進、加えて国民的な立法化運動の高まりで東京高裁の裁判を勝訴に導くことを確認しました。

挨拶で中山共同代表は、全国空襲連がゆがんだ戦後補償制度を正すには、会員の個人・団体と募金者の増加、地域に活動拠点をつくる国民的関心と理解を広める運動なくしては出来ないことを強調しました。討議では、補償要求は「おこぼれ」ではなく、人間の尊厳回復が国家補償に基づくこと。それは国家の責任を問い・謝罪・弔意・未来への平和づくり「証」(あかし)をつくることであると討議の一致をみました。

具体的な活動では、地域の議会活動の要請文、署名用紙の改訂、パンフ等の作成とともに、3月10日までに地方ブロックの結成を重点的に取り組み、当面関東地区の運営委員を中心に会議をもって、それを契機に全国の数カ所で動きが出るようにすることを申し合わせしました。

なお、戦災死者の①死亡届未提出者につき国の責任ある調査の実施②戦災者の戸籍上「失踪宣告」による7年後死亡扱いを、昭和20年3月10日戦災死に訂正すること③戸

籍の永久保存(法律改正)について国側に要請することを確認し、内容の検討に入っています。

次回の役員会は、2月20日(日)13時30分開催。3月8日(火)13時30分から東京・台東区民会館で、全国の空襲被災地代表参加も求めて「戦後66年放置から平和への国家補償へ」(仮称)の集会を開催します。

主催は東京大空襲訴訟原告団(平均年齢79歳)、支援団体は全国空襲連など。テーマは、裁判前進と立法化促進です。



2010年8月14日の全国空襲連結成

正面に座っている方は、写真に向かって左から共同代表の早乙女勝元さん、齋藤貴男さん、前田哲男さん、中山武敏さん。荒井信一さんは欠席でした。

戦後66年放置から差別国家補償の撤廃へ

全国空襲連の 活動基本方針

一、基本目標

1. 国家補償に基づく空襲等援護法の制定
2. 死没者の追悼と人間回復
3. 戦争の惨禍を繰り返さない
4. 全国戦災都市、地域ブロックに活動拠点をつくる
5. 空襲被害者の人間回復のために立法を求める署名の100万人突破

二、行動の申し合わせ

1. 立法化と訴訟の勝利による全面解決に向けて、宣伝・署名・学習に取り組みます。
2. 空襲体験を語り、記録運動をいっそう強め、全国空襲連の活動拠点をつくります。
3. 会員と募金の拡大に取り組み、全国空襲連の発展と活動資金の確保をめざします。
4. 国会の立法化促進に向けて、地方議会の決議へ、地元出身議員との折衝を積極的に詰めます。
5. 国会議員、政党への要請行動を強力に進めます。

三、具体的な活動

1. 事務局の実務として
 - (一) 役員、運営委員の個人・団体を区別をする
 - (二) 同役員、運営委員および候補（個人・団体のメーリングリスト作成）
 - (三) 全国空襲連の事務局体制確立、国会立法本部委員会の陣容整理
2. 全国の地域ブロックの拠点づくりと、具体的な活動へ地方議会議員に働きかける要請文案の作成・配布
3. 空襲等被害者援護立法を国家補償に基づく観点で署名用紙の改訂版作成
4. 3月10日前後に開催する集会の目的、規模、対象の企画案作成
5. 国会立法化対策の具体化
6. 立法化案の討議と詰めを裁判勝訴の取り組みと並行して進める計画

国会対策 立法化本部委員会設置

空襲等被害者援護法(仮称)の制定へ、全国空襲連の組織をあげて取り組む「国会対策・立法化本部」を設置します。

- 一 名称 国会対策・立法化本部
- 二 目的 空襲等被害者援護法(仮称)の制定へ、国会および地方議会・議員要請行動に関する一切の企画立案と行動と指示
- 三、体制 本部を代表して、任務を処理、実行するため、本部委員会をおき、次の任務担当者で構成します。
 1. 本部委員長 星野 弘
 2. 本部副委員長 中山武敏、山本英典、齋藤貴男、城森 満
 3. 事務局 長 足立史郎
 4. 事務局 牛山鈴子、齊藤亘弘、浅見洋子、西沢俊次、クック晶子
 5. 要請行動責任者
 - (一) 国会対策 山本英典、浅見洋子、足立史郎
 - (二) 地方議会対策 星野 弘、各地域ブロック代表
 6. 学習会・院内集会・集会動員責任者 牛山鈴子、齊藤亘弘、西沢俊次

* 弁護団の政党担当 (別記)
* 原告団・弁護団の立法化プロジェクトチーム (別記)
- 四、行 動 全国空襲連役員・運営委員で班編成をして行動に入る。
- 五、日 程 行動日程は協議する。

* 弁護団の政党別担当

1. 責任者 原田敬三
2. 担 当
 - 民主党・国民新党 (中山武敏)
 - 自 民 党 (黒岩哲彦、児玉勇二)
 - 公 明 党 (内藤雅義、瑞慶山茂)
 - みんなの党 (内藤雅義)
 - 社 民 党 (杉浦ひとみ)
 - 共 産 党 (水田敦士)
 - たちあがれ (柿沼真利)

* 立法化プロジェクトチーム

1. 責任者 原田敬三 (弁護士)
2. 副責任者 内藤雅義 (弁護士)、瑞慶山茂 (弁護士)
3. 委 員 水田敦士 (弁護士)、柿沼真利 (弁護士)、城森 満 (原告)、足立史郎 (原告)

日常の事務局体制・任務分担

一、事務局体制・任務分担

1. 事務局長 足立史郎
2. 事務局次長 牛山鈴子
斉藤亘弘
3. 会計担当・事務局補助 クック晶子
斉藤亘弘
4. 情報機関紙担当 西沢俊次
5. ホームページ・組織拡大担当 浅見洋子
6. 国会・立法化担当 対策本部設置
7. 弁護士より事務局体制・活動補佐

- (一) 相談役 児玉勇二、黒岩哲彦
 (二) 事務局補佐 柿沼真利、水田敦士
 (三) 国会担当補佐 内藤雅義、杉浦ひとみ
 8. 事務局スタッフ 上記メンバーの他に
 常時3, 4名は確保

- ・名簿整理点検
- ・会計の日常現金入出金、販売（出版物など）の扱い
- ・会報発行の編集委員
- ・発信・受信文書の整理、備品管理
- ・発送・発信（Fax、電話）、受信実務
- ・共同代表、運営委員、原告団、弁護士、他団体との情報交換連携
- ・会場確保、設営など

北から南から 原稿募集

広げる語り継ぎと行動の輪

テーマ=私たちの会の活動と抱負

- ポイント1、会の紹介と活動
 2、今後の地域での活動抱負
 3、全国空襲連への要望事項、期待

字数=600字、横書き20字詰30行

写真=1、2枚（活動状況、戦跡など）

〆切=毎月10日まで

宛先=全国空襲連の事務所
 TEL/FAX 03-5631-3922
 Mail= sachi67@kki.biglobe.ne.jp

生きていくために歯をくいしばって、浮浪児生活に耐えていたころのことを話す山田清一郎さん



連続公開フォーラム 未来につなぐ証言

第2回

俺たちは野良犬だったのか

講師・山田清一郎さん

都市空襲の恐ろしさをもっと広く知ってもらおうと第2回連続公開フォーラム「未来につなぐ証言」が10月24日、神戸大空襲の戦争孤児で、元中学校教員の山田清一郎さん=埼玉県在住=を迎えて東京都港区の大学研修施設で行われた。講演タイトルは「俺たちは野良犬だったのか」。

山田さんは1945年3月、6月の大空襲で父と母を相次いで焼き殺され、戦争孤児になった。当時10歳だった。

「焼け野原を母と探し回りましたが、父の骨さえ見つけられなかった。その3か月後に夷弾の重みで崩れかかった防空壕で『早う逃げ』と言いつつ逃げだした私は助かったが、母は崩れた防空壕の中で死にました」

山田さんの孤児生活はこのときから始まった。生きていくためにどうやって過ごしてきたのか。

「戦争は終わっても、食べ物を盗まなければ生きていけなかった。孤児仲間4人のうち、1人は残飯がもとで食中毒で死に、もう1人はトマトを盗もうとして、アメリカ兵の運搬するジープの下敷きになり死にました。鮮血の中に転がっていたトマトがいまも頭を離れず、現在もトマトを食べられません」

その後、山田さんは上京。JR上野駅を拠点に、浮浪児生活を続けたあと、長野県の孤児収容施設へ。定時制高校、大学夜間部を苦学して卒業、教員生活に入った。

「在職中、子どもたちに孤児体験を話したことはありませんでした。しかし、戦争の恐ろしさや命と平和の尊さを伝える気持ちが高まってきて、いまでは子どもたちに体験を話しています」

山田さんは空襲ですべてを失い、両親の遺影すら残されていない。講演の最後に、亡き母が生前よく歌ってくれたという思い出の曲「浜千鳥」をハモニカで独奏、講演を締めくくった。独奏には母への限りない思いが込められているようだった。

(文責・都市空襲研究会)